

SMAP 中居が木村と笑った! 香取が木村とお揃い

スタッフも目が点!もしかして...急転の日々を緊急報告

激震スクープ! 美智子さま 皇太子妃
 雅子さま 側近
 凍りついた
緊迫の7分間

またも!? 大谷 獲得レース 2歩先行く9才上女子アナ 有働 アナもついた 幸せ自慢な年賀状

独占 上戸彩 HIRO と娘と... 初めての昼下がり撮

特別定価 410円 11月10日号

女性セブ

哀悼 平尾誠二 不屈の男 極秘闘病と最後の家族旅行
 松嶋 菜々子 マンショントラブル 冷たい会釈にゾッ



大好評 貯まる女 第2弾 「家計ノート」細野真宏スヘシヤル対談
 NO.1でも... 私は吉祥寺ぎらい
 東大・慶応 悪行続き こんな大学生に誰がした?
 大黒摩季 6年ぶり万感ライブ
 イケメンすぎる6人の

新刊 お待たせしました!
 ガッチ裕三 「つく楽」ごはん

野菜高騰に見つ じゃが たまにん ストック野菜が 家計を救う

集中力アップ ぐっすり睡眠 アミノ酸 パワー全開

100名様 プレゼント 北海道、新潟、京都... 良新米 & 日本酒 相田みつをを泣く

清水寺、東福寺、嵐山... 期間限定イベントガイド付き 京都の紅葉

自内障・緑内障 レーシック... 目の手術最終結論
 大切なのは男性の意識改革、卵子凍結の今
 反響 続々 がんと生きる 遺伝という十字架

「遺伝」という十字架を背負って

がんを生きる



（遺伝性の乳癌はありま
せんが）小林麻央が
ブロンクスに帰ったのは、
娘や息子の思いがあった。
「ママは麻央のママ」
のKOBAYASHIのママ

（完全に抜けていた眉毛やま
つ毛が一ヶ月経たずに、生え
始め、形になりました。眉毛

乳がん罹患者は1人に1人。その多くは遺伝によるものという考えが長く
私たちの脳裏にあったのではないかと。小林麻央の母もまた娘の告知を
受け、「私のせいではないか」と自分を責めた。麻央自身も幼い娘に「私
のせいで将来もし」と不安を抱いた——長くつらい闘病生活には、こうし
た遺伝をめぐる葛藤もまた患者に重くのしかかってくる。

18日のブログに、そんな近況
とともに笑顔の写真をアップ
した。手術後、抗がん剤を休
止した影響で、抜け落ちた眉
毛やまつげが生えてきたのだ。
その約1か月前には、同じ
く乳がんの手術後、抗がん剤
治療も終えた北斗晶（49才）
が、シエル使えるほど髪が

乳がんは遺伝する
女性たちの胸に刻まれている、常識の誤ち

アンジーが健康な乳房を切
除・再建したことをきっかけ
に、米国で予防的切除をする
女性が増。日本にも大きな

影響を与えた。
ピンクリボンプレストケア
クリニック表参道の院長・島
田菜穂子さんが振り返る。

見舞われた。（乳房を全摘出
しなければならぬという結
果に心が付いて行けず……
なんとか温存療法で胸を残せ
ないか？ せめて乳頭だけで
も残せないか？）と当時のブ
ログには綴られている。
だからこそ、13年にハリウ
ッド女優のアンジェリーナ・
ジョリー（41才）が、乳がん
予防のために両乳房を切除し
たと公表したとき、世界中の
女性に衝撃が走った。またが
んになったわけでもないのに、
女性にとって大切な乳房を切
除しなければならぬほど、
がん遺伝の関係は深いもの
なのか、と——

「母が今、乳がんで治療中
なのですが、私も検査をした
ほうがいいのでしょうか？」
などと、がん遺伝に関する

女性セブン次号の発売は11月2日(水)です!

しかし、「私のせいで娘が、姉妹が、姪が」と悩む人は後を絶たない

相談が一気に増えました」

さらに15年、アンジーは卵巣と卵管を摘出したと発表。

乳がんに加えて卵巣がんも遺伝する。——それは衝撃をもって、常識のように女性たちの胸に刻まれたのだ。

実際のところ、がんは生まれつきの遺伝子や、たばこ、運動不足といった生活習慣・環境的要因、偶然が重なって誰にでも発症しうる病気だ。しかし、特定の遺伝子に異常があると、高い確率で発症する。

国立がん研究センター中央病院遺伝子診療部門の吉田輝彦さんが解説する。

「たとえば、乳がん・卵巣がんの中で遺伝が原因のものは罹患率全体の5〜10%だといわれています。その中で誰も持っていないBRCA1遺伝子あるいはBRCA2遺伝子に異常がある「遺伝性乳がん・卵巣がん症候群」の人は、生涯で乳がんにかかる割合が56〜84%、卵巣がんで40〜60%と高確率になります」

通常、乳がんになるのが11人に1人、卵巣がんは90人に1人といわれているので、それに比べると「遺伝性乳がん・卵巣がん症候群」の人はかなり罹患リスクが高い。アンジーは遺伝子検査の結果、BRCA1遺伝子異常が見つかった。実際、母親は乳がんと

卵巣がんに罹り56才で死去。祖母と叔母もがんで亡くなっている。

もし、自分がこのタイプのがんだったら、娘は？ 姉妹は？ と考えて悩んでしまうのは当然のこと。麻央も悩んだ。「乳がんを経験していた母は、ずっと胸のうちで「私のせい

かかる費用は約22万円。それは「想像以上にセンチティブ」な検査

検査を受ける場合、まずは専門機関でカウンセリングを受ける。血縁に乳がん罹患者が3人以上いるなど家族歴を確認して、遺伝子異常の可能性が低ければ検査の必要はないと判断されることもある。

また、検査は成人であれば本人の同意でできるが、基本的な前提として、「遺伝子」というナイーブな問題になるため、家族の十分な理解が必要になる。

「遺伝カウンセリングでは、遺伝子が異常だったとき、どんな危険がこれから起きる可能性があるのか、知るこゝによって受けるメリットとデメリットなどを説明します。この際、家族にはどこまでどう話をするかなども決めていきます」（前出・島田さん）

ではないか」と自分を責めていました。そして、妹も乳がんとなると、姉は、相当不安があったと思います。私は、娘のことも、とても心配で、私のせいで将来もし、と苦しい気持ちになりました」

しかし、麻央も受けた遺伝子検査は一般的ながん検診と違って、気軽に受けられる検査ではない。また、最近よく広告などでも見かけるようになった唾液を使った簡便なものとは全く別のもので、実際の検査までハードルが高く設定されている。

53名のうち、実際に検査を受けたのは911名、約6割といわれている。

また、検査自体は、採血のみで終わる。体への負担は少ないが、遺伝性乳がん・卵巣がん症候群の場合、自由診療で保険が利かないため、高額な費用がかかってしまう。

「施設によって違いますが、全額自費負担なので、金額は高くなります。当院の場合は初回カウンセリングが1万8000円、静脈採血が21600円、検査費用が20万5200円。結果を伝える外来が6480円。合わせて22万円ちょっとかかります」（吉田さん）

もし異常が見つかり、乳がんや卵巣がんにかかるリスクが高いとわかったら、治療費もかさむ。「家族の遺伝子も調べるときは、1人約5万円がかかります。また、遺伝子に異常があ

る場合の卵巣がんの予防は、卵巣を切除するのが一般的な方法です。ただ、保険が利かず約80万円。乳房に関しては、切除は一般的な予防法ではありません。検査を若い頃からこまめに行い、早期発見を促します」（吉田さん）

「結果が陽性だったら、その遺伝子の子供や姉妹が持っている可能性が約5割ある。だけど、人によってはまだ健康なのに「がんになる可能性が高い」ことを知りたくない人もいます。それを伝えてしまつてトラブルになることもあります」

「充分理解して検査を受けたいと、家族の間に溝ができることもある」と指摘するのは医療ジャーナリストの増田美加さん。

だから、伝えるかどうか、カウンセリングの段階で決めておくことが重要です」



遺伝子検査を受けることにより、家族に溝ができてしまうこともある。(写真はイメージ)

がんと生きる 第5回 遺伝子は努力で変えられるものではない。

結果を家族にどう伝えるべきか。「陽性」の時に迫られる重い決断

しかし、結果が陽性だったにもかかわらず、それを家族に伝えないのは後に大きな十字架を背負うことにもなる。東京都在住の主婦・坂下洋子さん（仮名・46才）は、今でも結果を家族に伝えなかつた。



切除とともに乳房再建も行い、以前と変わらぬ豊かなバストのアンジー（左）と、夫・佐々木健介（50才）のヘアトニックを借りて髪をセットした北斗（右）。

たことを悔やんでいると目に涙を浮かべる。「姉に『あなたが検査を受けるのは自由だけれど、私は結果を知りたくない』と言われて、検査で陽性だった私は約束通り伝えなかつたんです。」

そうしたら数年後、姉は乳がんを発症してしまつた。ああ、あの時どんなに嫌がられても、無理矢理にでも、なんとか伝えていれば……。そうしたらもっと早く見つかったかもしれないんです……。どうしようもないことだと頭でわかっているんですが、すごく苦しくて、姉が告知されたあの日から、私は罪悪感に押しつぶされそうになりながら日々をやり過ごしています……」

出産の悩みにも直面する。「当人同士の問題に他の家族が介入し、深い悩みになる場合もある」と吉田さんは言う。「実のお母さんから『遺伝するから子供を産むな』と言われた患者さんもありました。お母さんは身内だからこそ涙をのんでおっしゃったと思うのですが、これは基本的に夫婦の間で決めること。非常に難しい問題です」

こうしてみると、遺伝子検査がとてつもないもののように思えてくる。しかし、「遺伝子異常があったとしても、誰にも責任はない」と島田さんは断言する。「遺伝子は努力で変えられるものではありません。異常があつても、がんにならない人もいます。必要以上に不安を感じるとか、自責の念を抱く必要もない。逆に、事前に知ることのできる予防を考へることができまふ」

東京都在住の会社員・松田佐知子さん（仮名、36才）は「陽性だとわかつて、はじめてがんになった自分を許すことができた」と打ち明ける。「検診も受けて、生活にも人一倍気をつけていたはずなのに、乳がんになってしまった。ずっと、私の生活習慣のどこかに落ち度があつたせいだ、検診にもつとこまめに自分がかつたせいだと自分を責め続けていたけれど、遺伝だから自分の努力ではどうしようもなかつたんだとわかつて、少しだけ楽になりました」

それに、陽性だとわかることで、ホルモン剤を予防的に使つたり、乳がんの手術の際、温存か摘出かを選ぶときに、再発に備えて摘出を選ぶなど治療の手立てを先回りして考へることもできる。

しかし、そのようなメリットがあるにもかかわらず、遺伝子検査が怖いものだというイメージが抜けない理由には、前述した以外にも、「結婚や就労の差別」「遺伝子情報の流出」といった繊細な問題をはらむからだ。島田さんは、「日本の法整備は遅れている」と指摘する。

「欧米ではほとんどの国で、遺伝子情報によって保険や就職で不利益や差別を受けないと定めた法律がありますが、日本にはまだありません。今は、社会通念上、そういった差別的なことは聞いてはいけないとなつていますが、たとえ聞いたとしても恐らく法律問題にはなりません。」

遺伝子以前の問題ですが、大きな病歴があるときに何の病気が聞かれ、がんだと答えると、特に非正規雇用のかたは採用されないということは現実問題としてあります」（島田さん）

正しい情報が広まらず、家族ががんだから、がんになつた。という言葉が独り歩きする。結果、本人も家族も人知れず苦しみを抱えて生きることにつながっている。

＊
陰に隠れているそんな自分とお別れしようと思つた

これまで麻央はそんな言葉とともに、夫の海老蔵（38才）も驚いたほどの強い気持ちをもって、検査の重要さや家族の葛藤、子供への思いなど悩みや苦しみを、ときに喜びを綴つて来た。彼女が代弁したがん患者の悩みや苦しみを少しでも減らすために、社会の在り方も変わっていくべきなのではないだろうか。